

2025年10月14日

近鉄不動産株式会社

あべのハルカス美術館 展覧会 「アンドリュー・ワイエス展」 「ルーシー・リー展 ―東西をつなぐ優美のうつわ―」 開催決定！

あべのハルカス美術館では、日本美術や西洋美術、現代アートなど多彩な展覧会を開催しています。

2025年は、9月27日（土）から開催中の「手塚治虫 ブラック・ジャック展」に続き、12月から「密やかな美 小村雪岱のすべて」、2026年3月から「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」、7月から「ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルト美術館所蔵」を開催予定です。（既報のとおり。詳細は別紙参照）

このたび上記の展覧会に続き、新たに、2展覧会の開催が決定しましたのでお知らせします。

今後も、より魅力的な都市型美術館として多くのお客様にお越しいただけるよう運営してまいります。

「アンドリュー・ワイエス展」

会 期：2026年10月3日（土）～12月6日（日）

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開 催 趣 旨：アメリカの風景や人々を、深い精神性を宿したリアリズムによって描いたアンドリュー・ワイエス（1917-2009）。日本では17年ぶりの大規模巡回展となる本展では、その作品に数多く登場する窓や扉といった「境界」を暗示する表現に光を当てます。内と外、自己と他者、生と死など、さまざまな「境界」をつなぐワイエスの絵画は、世界の分断が進むいまの時代に、静かな希望をもたらしてくれることでしょう。



①《クリスティーナ・オルソン》1947年

テンペラ・パネル マイロン・クニン・コレクション、ミネアポリス

Myron Kunin Collection of American Art, Minneapolis, MN photo: Curtis Galleries, Inc.

© 2025 Wyeth Foundation for American Art / ARS, New York / JASPAR, Tokyo

「ルーシー・リー展 ―東西をつなぐ優美のうつわ―」

会 期：2026年12月26日（土）～2027年3月7日（日）

共 催：朝日新聞社、朝日放送テレビ

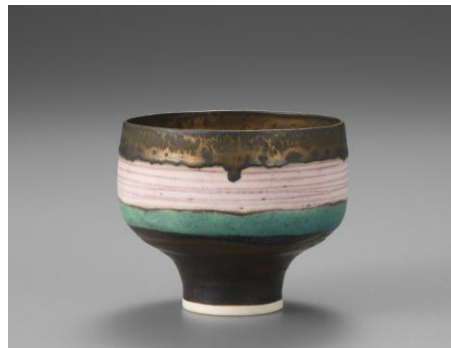
開 催 趣 旨：20世紀を代表する陶芸家ルーシー・リー（1902-1995）は、19歳の時に轆轤^{ろくろ}と出会い陶芸の道へと進みます。それ以来、彼女の尽きない探究心から生まれた優美なかたちと豊かな色彩表現は、ウィーンからロンドンに渡り活動続けるなかで洗練を極め、新しい造形世界を人々に提示しました。本展は、今もなお私たちを魅了してやまない彼女の作陶の軌跡を、それぞれの地で出会った人やもの、さらに東洋との関わりを交えながら紐解きます。



②ルーシー・リー《ブロンズ釉花器》1980年頃
井内コレクション(国立工芸館寄託)
撮影：品野壘



③ルーシー・リー《青釉鉢》1978年
国立工芸館蔵
撮影：アローアートワークス



④ルーシー・リー《ピンク象嵌小鉢》1975-79年頃
国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティフォト

※上記①～④の画像データは貸出が可能です。ご希望の方はお問合せください。

また、事前に原稿の確認が必要になります。

（画像の使用は、本展覧会をご紹介いただく媒体に限ります。ご使用後は破棄をお願いします。）

あべのハルカス美術館 2025年9月～2027年3月 展覧会ラインアップ

会期	2025年9月27日(土) ～ 12月14日(日)	12月27日(土) ～ 2026年3月1日(日)	3月20日(金) ～ 6月14日(日)	7月4日(土) ～ 9月9日(水)	10月3日(土) ～ 12月6日(日)	12月26日(土) ～ 2027年3月7日(日)
展覧会名	手塚治虫 ブラック・ジャック展	密やかな美 小村雪岱のすべて	ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト	ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルト美術館所蔵	アンドリュー・ワイエス展	ルーシー・リー展 ー東西をつなぐ優美のうつわー

【詳細】

手塚治虫 ブラック・ジャック展

会 期：2025年9月27日(土)～12月14日(日)
共 催：読売テレビ、読売新聞社
開 催 趣 旨：本展は、500点以上の原稿に加え、連載当時の『週刊少年チャンピオン』や1970年代に発行された単行本、200以上のエピソードの直筆原稿が展示される『ブラック・ジャック』史上最大規模の展覧会です。手塚治虫の情熱と執念が感じられる当時の資料も展示。世界的に評価されている名作マンガ『ブラック・ジャック』のすべてを余すことなく体感できます。



第29話「ときには真珠のように」1974年

密やかな美 小村雪岱のすべて

会 期：2025年12月27日（土）～2026年3月1日（日）
前期 12月27日（土）～2月1日（日）、後期 2月3日（火）～3月1日（日）
共 催：毎日新聞社、MBSテレビ
開 催 趣 旨：大正から昭和初期にかけて、日本画や書籍の装幀、挿絵や映画の美術考証、舞台装置に至るまで、幅広く手がけた小村雪岱（1887～1940）。本展では、泉鏡花をはじめとする数多くの文学者や松岡映丘などの日本画家、出版人や舞台人たちとの交流と協働に光をあて「人」とのつながりから雪岱の全画業を再考します。彼らの仕事へのリスペクトから、雪岱の情趣溢れる端麗な作品世界がいかに築かれたかをみつめ、新たな雪岱像の構築をめざします。



【前期展示】
《青柳》大正13(1924)年頃 絹本着色
埼玉県立近代美術館蔵



【後期展示】
《雪の朝》大正13(1924)年頃 絹本着色
埼玉県立近代美術館蔵



【前期展示】
《おせん》昭和16(1941)年頃 ※没後の刷り 木版、紙
埼玉県立近代美術館蔵

ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト

会 期：2026年3月20日（金・祝）～6月14日（日）
共 催：ブルックリン博物館、朝日新聞社、東映、読売テレビ
企画協力：日本テレビ放送網
開 催 趣 旨：彫刻、棺、宝飾品、陶器、土器、パピルス、そして人間やネコのミイラなど約150点の遺物を通じて、私たちの想像を超える高度な文化を創出した人々の営みをひも解きます。「知っているようで知らない事実」から最新技術を使ったピラミッド研究まで、映像や音声も交えて紹介します。



《神官ホル(ホルス)のカルトナーージュとミイラ》(部分) 前760～前558年頃



《カバの像》前1938～前1539年頃

いずれもブルックリン博物館蔵 Photo : Brooklyn Museum

ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館所蔵

会 期：2026年7月4日（土）～9月9日（水）

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：ドイツ、ケルン市のヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館・コルプー財団が所蔵する豊かなコレクションから、モネ、ルノワール、ピサロほか印象派をめぐる42名の巨匠たちの作品70点を紹介します。とりわけ、印象派以降の流れのなかでも際立つ存在であるゴッホの《跳ね橋》が本展の見どころの一つです。



フィンセント・ファン・ゴッホ《跳ね橋》1888年 油彩、カンヴァス
Vincent van Gogh, The Drawbridge, 1888, Oil on canvas



エドゥアール・マネ《アスパラガスの束》1880年 油彩、カンヴァス
Édouard Manet, A Bunch of Asparagus, 1880, Oil on canvas

作品はすべてヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館・コルプー財団蔵
Wallraf-Richartz-Museum & Fondation Corboud, Cologne
Photo: © RBA, Cologne

本展覧会は、ドイツ連邦共和国ケルン市のヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館・コルプー財団の協力のもとに開催されています。

あべのハルカス美術館

【開館時間】

火～金：10:00 - 20:00

月土日祝：10:00 - 18:00

*入館は閉館30分前まで

【休館日】

一部の月曜日、年末年始

展示替え期間(不定期)

*展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43

あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅

JR各線「天王寺」駅

Osaka Metro御堂筋線「天王寺」駅

Osaka Metro谷町線「天王寺」駅

阪堺上町線「天王寺駅前」駅

【アクセス】

